電子黒板・地域連携・海外交流で学校の活性化を！

― 電子黒板は校内研修の牽引車 ―

東京都墨田区立文花中学校　校長　渡部　昭
akirawatabe@gmail.com

キーワード：中学校，全教科，電子黒板，地域連携，海外交流

１．はじめに

２００９年９月の政権交代による、「事業仕分け」により、補正予算で計上されていた電子黒板等のＩＣＴ関連予算は第一次募集分は執行されたが、第二次募集分については執行が停止されることになった。学校のＩＣＴ化の推進が期待されていたところなので、残念に感じたのは私だけではないかと思う。しかし、事業仕分けの議論の中で、「電子黒板」が真正面から議論されたことで電子黒板の知名度が上がったことは事実である。

私は、前任校の墨田区立鐘淵中学校の時から、全校での電子黒板の活用に取り組んできた。文花中学校に転勤後も引き続き電子黒板の活用を推進してきた。特に、「ＩＣＴルーム」という電子黒板が常設される教室が完成してから電子黒板の活用は格段に進んでいる。事業仕分けの中で、「電子黒板は本当に有効なのか？」「電子黒板を導入しても教師が使いこなせないのではないか？」等の意見が出されたが、電子黒板はあくまで道具である、しかし素晴らしい道具になる可能性を秘めた機器であると思う。昨年９月、海外交流の一環として、ニューヨークの学校を視察する機会があった。ある小学校では、７４クラスあるすべての教室に電子黒板が設置されていた。普通の黒板のように電子黒板が通常の授業で活用されている姿を見て、「これだ！」と実感した。電子黒板は特別なものではなく、第二の黒板として存在すれば良いのだと思った。電子黒板の可能性を示す本校の実践の一端を報告したい。

２．電子黒板活用への道筋

（１）　なぜ電子黒板なのか？

学力低下の問題が報じられてから久しい。学力を論じる時に大切なことは、児童・生徒の学習に対する関心や意欲の低下こそ問題にされなければならない。児童・生徒の関心・意欲を向上させる道具として、「電子黒板」は優れた道具である。更に、校内の情報化の推進を図る上でも、電子黒板は力を発揮してくれる道具である。コンピュータを活用しての授業は難しいと思っている教員でも、電子黒板の活用でそのハードルを越えることができる。

電子黒板には以下のような５つの機能がある。

＜電子黒板の５大機能＞

①「授業改善の切り札」（「夢の黒板」）
② 校内の情報化推進ツール
③ 教員のＩＣＴ活用指導力アップツール
④ 生徒のプレゼンテーション力アップツール
⑤ 校内研修活性化ツール

写真１　視聴覚室

写真２　ＩＣＴルーム

（２）　視聴覚室を「ＩＣＴルーム」へ

電子黒板の活用を始めた時は、「ユニット型」「ボード型」「一体型」の３種類の電子黒板を教室へ運び使用していた。難点は、教室での設置の準備に時間がかかることと、電子黒板やプロジェクターの位置がずれると、そのたびに電子黒板の画面上の位置補正をしなければならない。そこで、いつでもそこに行けば電子黒板が使える教室を作ることだと考え、文部科学省の委託事業の研究調査校に応募し、スマートインフィルというシステム導入をすることができた。

（３）　研修システムの構築

共同研究者としての外部リソースの活用

メーカーや教科書会社、コンピュータ教育開発センター（ＣＥＣ）、日本教育工学振興会（ＪＡＰＥＴ）に共同研究者として協力をいただく

研究授業・公開授業での積極的な活用

校内研究授業、学校公開では必ず電子黒板を活用した授業を行うよう計画を立てる

３つの研修スタイルとサポート体制

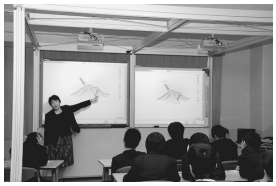
＜全体研修会＞
・電子黒板に関わる研修会を年間３回位実施

＜インストラクター研修＞
・校内の教員の中にインストラクターを育成する
・コンピュータの苦手の方にもお願いする
・インストラクター研修の実施

＜グループ研修＞
・全員が長期休業中に、インストラクターから個人、グループレッスンを受ける

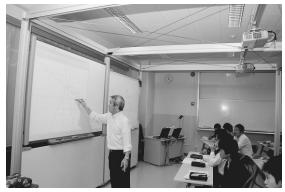
『ＩＣＴサポート隊』
・授業中のトラブルには職員室にいる教員がサポートする

（４） 電子黒板活用事例



＜写真３　国語：
デジタル教科書＞

＜写真４　美術：
ユニット型常設＞



＜写真５　数学：
フリーソフト利用＞

＜写真６　保体：
カメラ利用＞

（５） 電子黒板の授業のテレビ放映と視察

＜写真７　日本テレビ
ズームインスーパー＞

＜写真８　フジテレビ
新報道２００１＞

＜写真９　文部科学省
から視察＞

＜写真１０　インドの
大学院から視察＞

（６） 生徒と教師の変容

本校の数学科のＳ教諭は、関数の単元では必ずＩＣＴルームを活用している。直線や放物線を描く時など、電子黒板と従来の方眼黒板との生徒の理解度の違いは歴然としているという。国語科では、古典の分野では３人の国語の教員がデジタル教科書を活用している。生徒達の授業への取り組みの違いがあるという。また、教員のＩＣＴ活用指導力のチェックリストも、電子黒板の活用の前後では活用指導力が向上していることが分かった。

３．地域連携の推進の中での活用

文花中地区青少年育成委員会が主催する３大行事である、「地域ふれあい祭」「クリスマスコンサート」「地域音楽祭」には、本校の多くの生徒達がそれぞれ役割を持って関わっている。これらの行事でもプラズマ型電子黒板は活用されている。

＜写真１１
地域ふれあい祭＞

＜写真１２
クリスマスコンサート＞

＜写真１３
地域音楽祭＞

４．慶応大学との連携（ニューヨークプロジェクト）－　海外との交流

慶應大学の長谷部葉子研究室の学生３～１０名が毎週本校にサポーターとして来校し、本校の１年生を中心にニューヨークの子どもたちとの連携プログラムを実施している。

＜写真１４　長谷部先生、
学生と生徒＞

＜写真１５　長谷部先生に
よる英語の夏期講習＞

＜写真１６　ニューヨーク視察・
全教室に電子黒板が設置＞

＜写真１７　ＳＫＹＰＥ
でニューヨークと交信＞

５．まとめと課題

○「授業改善のツール」として電子黒板を活用しようという雰囲気が教員の中に生れてきた。
○ 電子黒板について日常的に教え合う体制ができつつあり、それが校内研修全体の活性化につながっている。
○ 電子黒板の生徒の発表のツールとしての活用は、学年集会等で、部分的に行われているが、まだ十分ではない。
生徒への活用方法についても実践を重ねていきたい。
○ 電子黒板を活用した本校の実践を外部へ発信することで実践の質の向上を図っていきたい。